

# 防災

大規模災害に備えて確かな防災力を追求



災害対策本部

中部地方整備局管内をはじめ、全国各地で発生した災害情報をいち早く収集し、適切かつ早急に指示・情報発信を行います。災害対策本部室では、管内にある3,000台の監視カメラ(CCTVカメラ)の映像や防災ヘリコプターからの映像をリアルタイムで見ることができます。



防災ヘリコプター まんなか号

発災直後に、迅速な情報収集を行うために、ヘリコプターを運用しています。高性能テレビカメラを搭載し、衛星回線を通して災害対策本部に映像を送信します。調査には職員も搭乗し、対応にあたります。



排水ポンプ車

発電機と排水ポンプ、ホースなどを搭載し、浸水被害現場へ出動し、排水作業を行います。令和元年8月の前線に伴う大雨や令和元年東日本台風(台風第19号)では、河川の氾濫により浸水した地域に排水ポンプ車を派遣し、早期復旧に貢献しました。



ドローンによる被災状況調査

二次災害の恐れがある危険箇所や地形的に立ち入り困難な箇所の調査を行う際には、ドローンを利用します。令和元年東日本台風(台風第19号)においても、TEC-FORCE隊員がドローンを活用し、情報収集にあたりました。



TEC-FORCE ~緊急災害対策派遣隊~

大規模な自然災害が発生した場合に、被災状況の把握、被害の発生・拡大の防止、被災地の早期復旧、災害応急対策に対する技術的支援を行います。隊員は、全国の国土交通省職員で構成され、中部地方整備局でも多くの職員が隊員に任命されており、様々な活躍をしています。



南海トラフ地震対策中部圏戦略会議

南海トラフ巨大地震が発生した場合に、いかにして地域を守るか、被災地の一日も早い復旧をどう進めるか、中部地方整備局が中心となって、企画や運営を行っています。会議には、中部地域の国、地方公共団体、学識経験者、経済界等の135機関が連携し、成果の共有を図るとともに、一体的な対策を推進しています。



防災訓練  
(南海トラフ巨大地震防災訓練)

南海トラフ巨大地震などの広域かつ甚大な被害に備え、自衛隊、警察、県、市などとともに、各機関の役割、連携体制の強化を目的とした防災訓練を実施しています。



防災意識の啓発  
(ぼうさいこくたい2019@NAGOYA)

産学官民の連携により、南海トラフ地震から日本の経済と産業、地域社会と住民を守ることを目的として、ハイレベルセッション「南海トラフ巨大地震へのソナエ」を開催(R1.10)しました。



平成22年度入省  
(土木)  
木曾川下流河川事務所  
調査課 係長  
村橋 由利子さん

地震、台風等の大規模災害が発生した場合に、被災された皆様が少しでも早く日常生活に戻れる様、被害の把握を行い、迅速な復旧につなげることがTEC-FORCEの使命です。

私は平成28年8月の台風10号により被災した東北地方に派遣され、現地状況を調査している隊員からの情報収集や他地整との調査箇所の調整を行いました。大規模災害発生時に全国から職員が終結し、被災箇所の調査を行い、復旧方法の立案を行う技術力は国土交通省ならではと言えるのではないでしょうか。

被災された方に日常を一日でも早く取り戻す手助けを行い、再度災害が起こらないよう対応する仕事はとてもやりがいを感じます。



平成28年度入省  
(行政)  
防災室  
市川 琢朗さん

私の業務は、災害時と平常時で大きく異なります。災害時は、災害対応の中心となる災害対策本部の運営や被災地へのTEC-FORCE派遣に関する業務を行います。平常時には近い将来必ず起こると言われる南海トラフ巨大地震に対して、被害や経済への影響を最小にするために、関係者が一体となって対策を考える南海トラフ地震対策中部圏戦略会議の運営などを行っています。

常に災害と隣り合わせの部署で、人命や住民生活に直結する業務が多く、その責任の重さに悪戦苦闘することもあります。「中部地域の住民が安心して暮らせるためのお手伝いをする」という使命感を持ちながら日々業務に取り組んでいます。

柔軟な発想とはつらつとした元気を持った皆様と一緒に働ける日を楽しみにしています!